

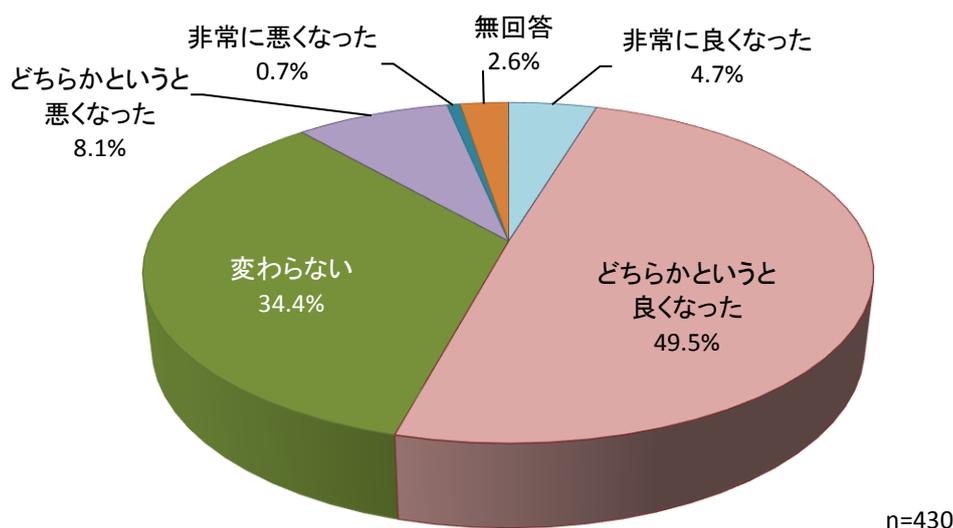
## 4. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が5割半ば

問16	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じますか。	(○は1つ)
		n=430
1	非常に良くなった	4.7%
2	どちらかというと言良くなった	49.5%
3	変わらない	34.4%
4	どちらかというと言悪くなった	8.1%
5	非常に悪くなった	0.7%
	(無回答)	2.6%

<図IV-4-1>全体



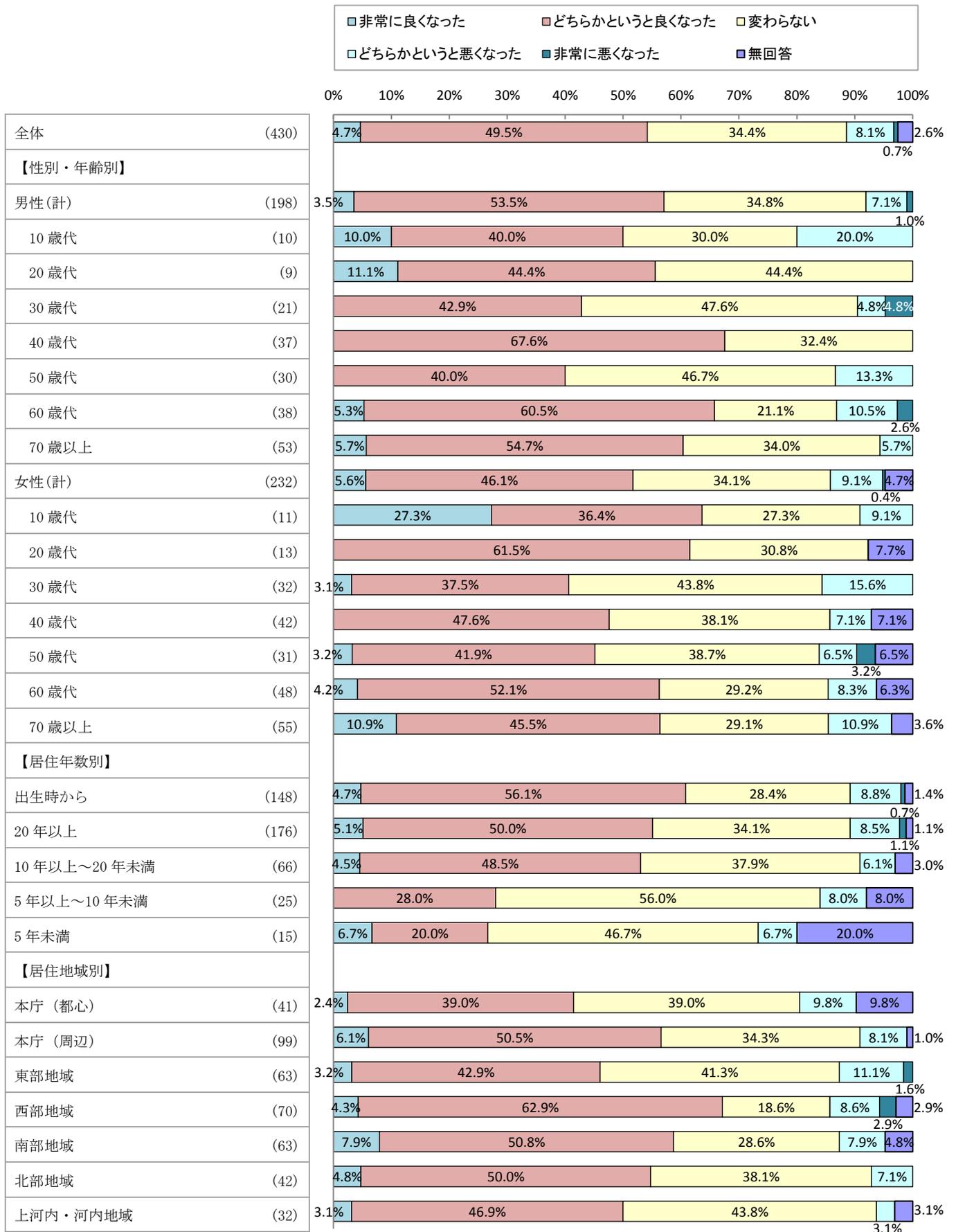
宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」が4.7%、「どちらかというと言良くなった」が49.5%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は54.2%であった。一方、「変わらない」は34.4%であった。(図IV-4-1)

性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<男性/40歳代>が67.6%で最も高かった。一方、「どちらかというと言悪くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった(計)】は<男性/10歳代>が20.0%で最も高かった。(図IV-4-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<出生時から>が60.8%で最も高く、居住年数が長いほど割合が増加する傾向であった。(図IV-4-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<西部地域>が67.2%で最も高かった。(図IV-4-2)

<図IV-4-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別

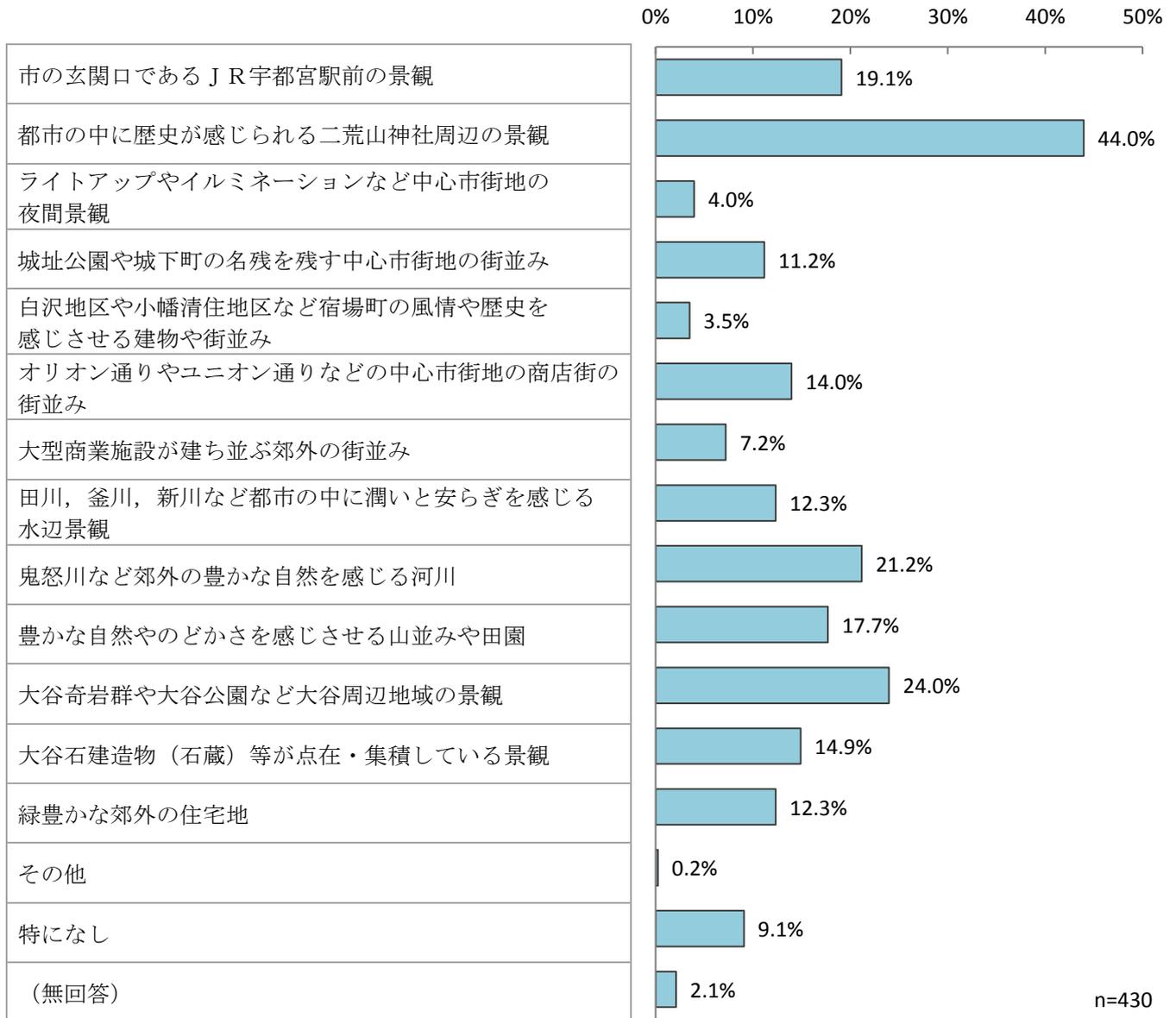


(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

◇ 「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割半ば

問17	宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。	(○は3つまで)
		n=430
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観	19.1%
2	都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観	44.0%
3	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観	4.0%
4	城址公園や城下町の名残を残す中心市街地の街並み	11.2%
5	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み	3.5%
6	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み	14.0%
7	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み	7.2%
8	田川, 釜川, 新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観	12.3%
9	鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川	21.2%
10	豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園	17.7%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観	24.0%
12	大谷石建造物(石蔵)等が点在・集積している景観	14.9%
13	緑豊かな郊外の住宅地	12.3%
14	その他	0.2%
15	特になし	9.1%
	(無回答)	2.1%

<図IV-4-3>全体



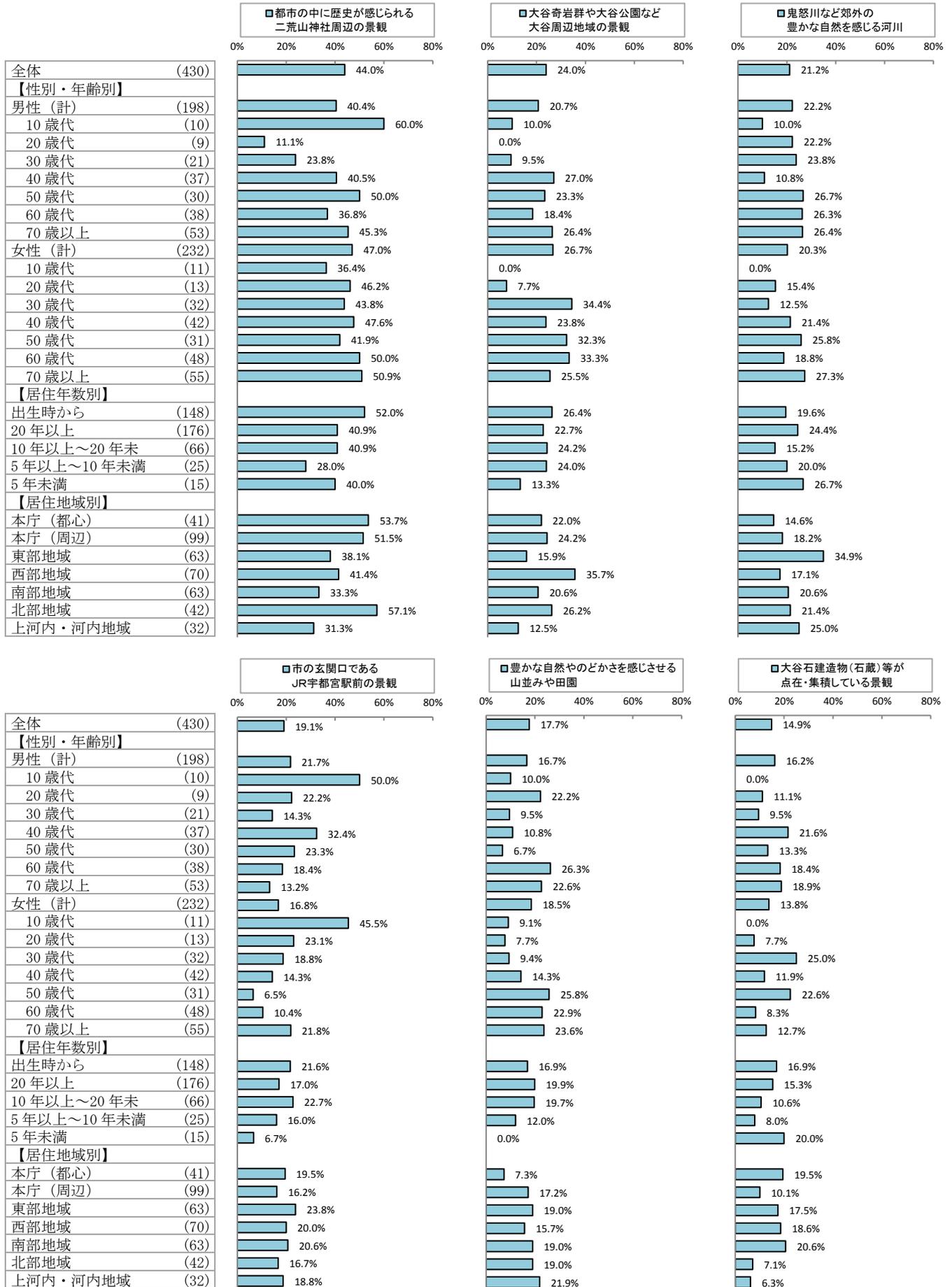
「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が44.0%で最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が24.0%であった。（図IV-4-3）

性別・年齢別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<男性/10歳代>が60.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が50.9%であった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<女性/30歳代>が34.4%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が33.3%であった。（図IV-4-4）

居住年数別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<出生時から>が52.0%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<出生時から>が26.4%で最も高かった。（図IV-4-4）

居住地域別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<北部地域>が57.1%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<西部地域>が35.7%で最も高かった。（図IV-4-4）

<図IV-4-4>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別（上位6項目）

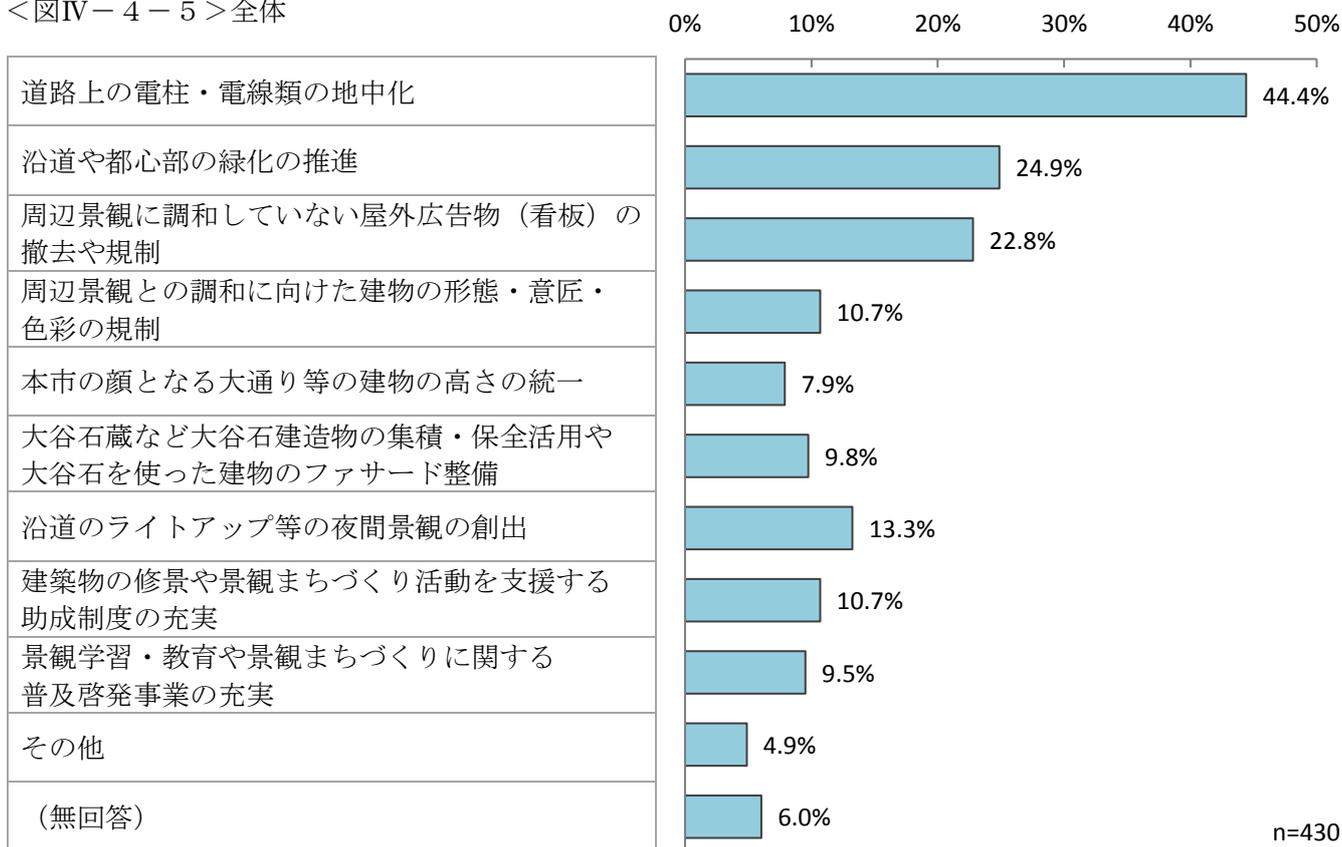


### (3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

#### ◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が4割半ば

問18	良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。	(○は2つまで)
		n=430
1	道路上の電柱・電線類の地中化	44.4%
2	沿道や都心部の緑化の推進	24.9%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制	22.8%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	10.7%
5	本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一	7.9%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物のファサード整備	9.8%
7	沿道のライトアップ等の夜間景観の創出	13.3%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	10.7%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	9.5%
10	その他	4.9%
	(無回答)	6.0%

<図IV-4-5>全体



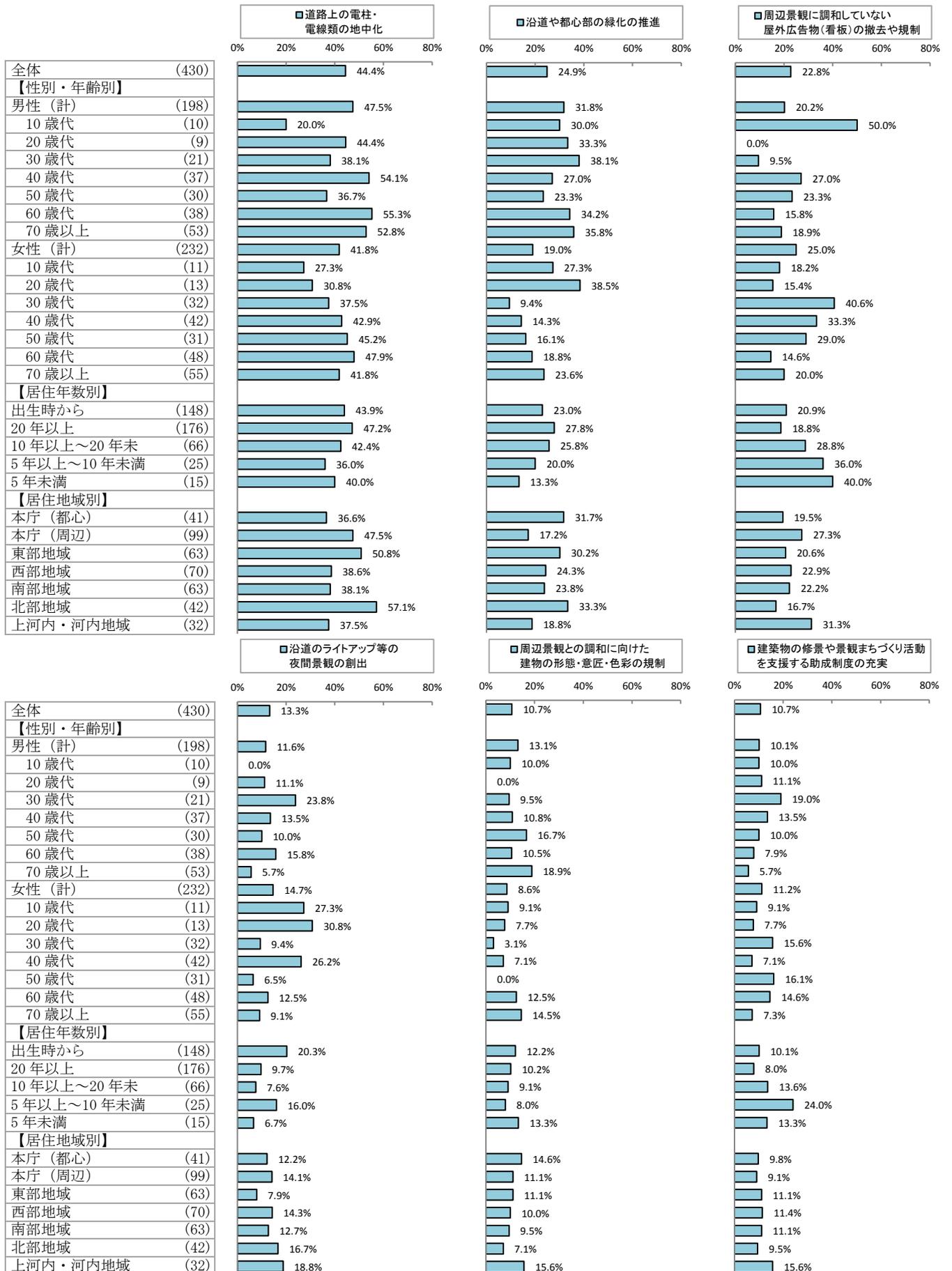
良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が44.4%で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が24.9%、「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が22.8%と続いている。(図IV-4-5)

性別・年齢別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<男性/60歳代>が55.3%で最も高かった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<女性/20歳代>が38.5%で最も高かった。(図IV-4-6)

居住年数別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<20年以上>が47.2%で最も高かった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<20年以上>が27.8%で最も高かった。(図IV-4-6)

居住地域別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<北部地域>が57.1%で最も高かった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<北部地域>が33.3%で最も高かった。(図IV-4-6)

<図IV-4-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別（上位6項目）

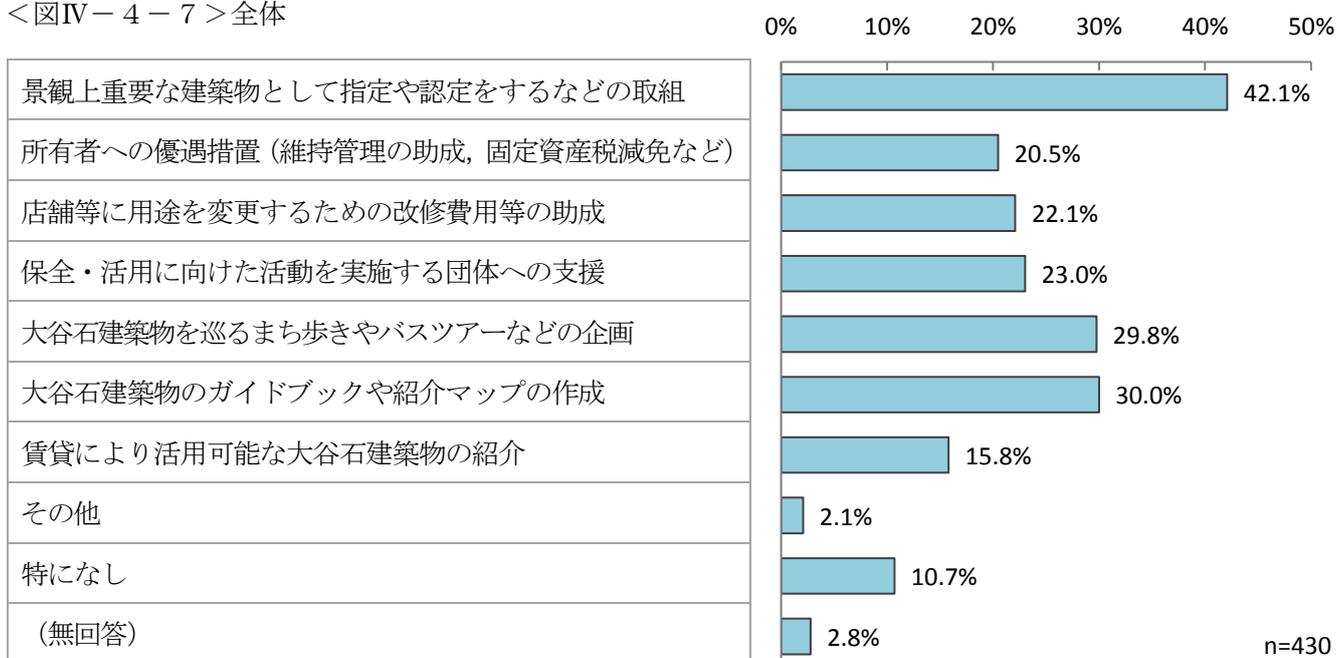


#### (4) 景観資源である大谷石建築物に対する必要な取組は何か

##### ◇ 「景観上重要な建築物として指定や認定をするなどの取組」が4割強

問19	本市のイメージを印象付ける貴重な景観資源である大谷石蔵などの大谷石建築物に対する必要な取組は何だと思いますか。 (〇は3つまで)	n=430
1	景観上重要な建築物として指定や認定をするなどの取組	42.1%
2	所有者への優遇措置（維持管理の助成，固定資産税減免など）	20.5%
3	店舗等に用途を変更するための改修費用等の助成	22.1%
4	保全・活用に向けた活動を実施する団体への支援	23.0%
5	大谷石建築物を巡るまち歩きやバスツアーなどの企画	29.8%
6	大谷石建築物のガイドブックや紹介マップの作成	30.0%
7	賃貸により活用可能な大谷石建築物の紹介	15.8%
8	その他	2.1%
9	特になし	10.7%
	(無回答)	2.8%

<図IV-4-7>全体



景観資源である大谷石建築物に対する必要な取組は何かについて、「景観上重要な建築物として指定や認定をするなどの取組」が42.1%で最も高く、次いで「大谷石建築物のガイドブックや紹介マップの作成」が30.0%、「大谷石建築物を巡るまち歩きやバスツアーなどの企画」が29.8%と続いている。(図IV-4-7)

性別・年齢別でみると、「景観上重要な建築物として指定や認定をするなどの取組」は<男性/20歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が54.2%であった。「大谷石建築物のガイドブックや紹介マップの作成」は<男性/50歳代>が40.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が39.6%であった。(図IV-4-8)

居住年数別でみると、「景観上重要な建築物として指定や認定をするなどの取組」は<出生時から>が46.6%で最も高かった。「大谷石建築物のガイドブックや紹介マップの作成」は<出生時から>が39.9%で最も高かった。(図IV-4-8)

居住地域別でみると、「景観上重要な建築物として指定や認定をするなどの取組」は<北部地域>が52.4%で最も高かった。「大谷石建築物のガイドブックや紹介マップの作成」は<北部地域>が38.1%で最も高かった。(図IV-4-8)

<図IV-4-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別

